

# ハウス食用ホオズキの挿し木苗利用による作期前進技術

田口多喜子・檜森靖則・田村 晃

## 1. ねらい

中山間地域では、多様な特産作物の生産が行われている。その中で、食用ホオズキは軽量で、ジャムやアイスクリームなどの加工にも適すことから、特徴あるマーケティング戦略が可能である。対象地域のK村に食用ホオズキが導入されて4年目となるが、主体であった露地栽培を品質向上と収量確保のためハウス栽培に切り替えてきている。しかし、これまでの実生苗定植では収穫始めが7月下旬と遅く、収量も安定しなかった。そこで、7月上旬の需要期に応えるため、作期をできるだけ前進させる技術を開発し、作型確立を図ることを目的に実施した。

## 2. 試験方法

(1)試験年次：2001～2003年

(2)試験場所：秋田農試パイプハウス100平方メートル(普通非アロフェン質黒ボク土)

(3)試験区の構成：

〔試験1〕挿し木時期(2001) 1区 3月上旬、2区 3月中旬、3区 実生(慣行)、〔試験2〕挿し木部位(2002) 1区 最上部、2区 分岐部、3区 実生(慣行) 〔試験3〕育苗法(2003) 1区 発根剤無使用、2区 発根剤使用(挿し木用土はバーミキュライト)

(4)耕種概要：

挿し木；3月2日(2002)、3月10日(2003)、播種日(実生)；2月20日、定植日；4月19日、施肥(kg/a)；基肥 窒素：リン酸：カリ各1.3、追肥 窒素：リン酸：カリ=0.2：0.1：0.16(液肥で実施)。栽植様式；畝幅200cm株間80cm(62本/a)、グリーンマルチ栽培。誘引；キュウリ用支柱を1m間隔で設置

(4)試験規模：〔試験1〕 1区5株2反復、〔試験2・3〕 1区10株反復なし

## 3. 試験結果及び考察

(1)親株養成方法

前年の11月上旬に収穫終了時の株から発生した側芽を取り、長さ10cmに調製し、バーミキュライトに挿す。発根後10.5cm径のポリポットに仮植し、1月中旬に20cm径の深鉢に最終鉢上げを行い、親株とした(図1)。

(2)苗用挿し木方法

養成した親株から3月上旬に挿し穂を取り、10cm長に調製し、バーミキュライトに挿す。発根したら3月下旬に12cm径のポリポットに鉢上げした(図2・図3)。

(3)挿し木苗定植と収穫始期

4月中旬にハウス内に定植すると実生(慣行)苗定植より開花が早まり、約40日早い6月上旬に収穫が始まった(表1)。

(4)挿し木苗定植での生育

挿し木苗定植は、下位節から着花する。挿し穂部位を枝の最上部とすると、草丈・茎径の生育が旺盛で、収穫節位が低下し、収穫が早まった(表1)。

(5)挿し木時期・挿し木部と収穫開始及び収量

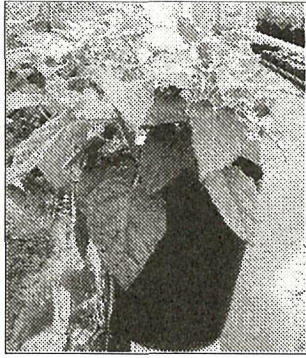
挿し木時期は3月上旬が、挿し木部位は最上部挿しがもっとも収穫開始が早まった。8月上旬までの早期収量及び全収量は実生(慣行)苗定植より勝った(図4)。

(6)発根剤を使用しない挿し木法

2001・2002年は、発根剤を使用しての試験であった。使用したオキシベロン粉剤は、食用作物に登録が無いため、発根剤を使用しない育苗法について検討を加えた。その結果、挿し木時、発根剤を使用しなくとも苗の生育・発根率に差がないことが分かった(表2、図5)。

## 4. まとめ

食用ホオズキ(*Physalis peruviana* L)のハウス栽培において、前年養成した親株から挿し穂をとり、3月上旬挿し木、4月中旬定植すると、慣行の実生苗定植に比べ約40日の収穫前進が図れ、果実重も大差ない。挿し穂の採取部位は枝の最上部が適する。また、発根剤を使用しなくとも育苗ができる。



挿し木：前年11月に実施、採穂：収穫終了期の株より採取、挿し穂調製：10cm長、挿し木用土：パーミキュライト、仮植：発根後10.5cm径の黒ポリポット、最終鉢上げ：20cm径の鉢(1月中旬)

図1 親株養成方法(採穂間近の親株：3月)

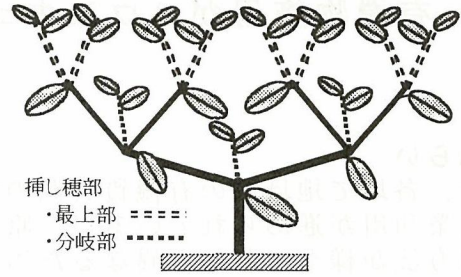
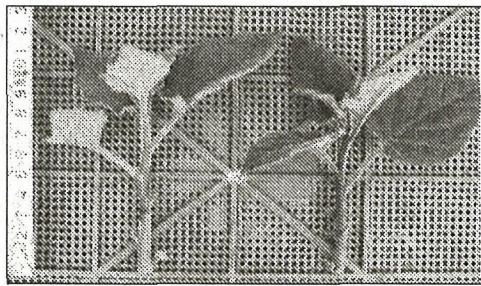
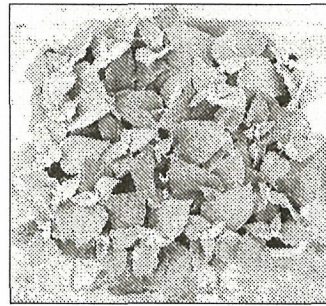


図2 挿し穂の採取部位



調製後の挿し穂



挿し木の状況

採穂：親株から部位別に行う、挿し穂調製：10cm長、挿し木用土：パーミキュライト、挿し木：育苗バット深型、発根剤：サハコ粉剤0.5、温度管理：発根まで20°C、鉢上げ；発根後12cm径の黒ポリポットに実施

図3 苗用挿し木方法

表1 挿し穂の採取部位の違いと生育(2002年)

試験区	定植期(4/19)				開花 始期 (月/日)	収穫始期(7/30)				収穫 始期 (月/日)	備考 市場単価 (ケース当たり)
	草丈 (cm)	茎径 (mm)	着花節位 (節)	着花高 (cm)		草丈 (cm)	茎径 (mm)	着果高 (cm)	枝数 (本)		
最上部	42	9.3	2	16.9	4/10	239	37.3	5	4	6/7~	7月/400円
分岐部	44	8.9	3	23.2	4/19	235	34.7	6	4	6/7~	8月/上旬：330円
実生(慣行)	19	6.4	5*	未着花	5/24	216	33.8	37	4	7/17~	8月/中旬：270円

注)\*実生の着花節位は葉数である。

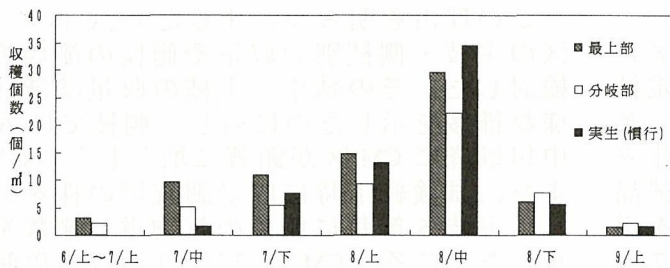
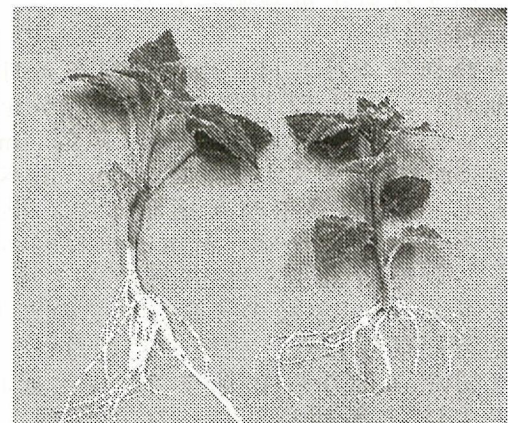


図4 挿し穂部位の違いと収穫個数の推移(2002年)

表2 発根剤使用の有無と苗の生育

区分 発根剤	草丈 (cm)	分枝 (本)	発根率 (%)
無	21	3.9	100
有	21.7	4	100



発根剤使用 発根剤無使用

図5 発根状況(2003年)